

山岳部部歌 — 山の四季 —

(昭和十四年頃)

朝比奈英三君 作歌

渡辺良一君 作曲

一

ふぶきの尾根も 風止みて
春の日ざしのおとずれに
沢のなだれも 静まりて
雪げの沢の 歌樂し
いざ行こう 我が友よ
暑寒の尾根に 芦別に
北の山のさらめの尾根を飛ばそうよ

二

沢を登りて いま五日
ワラジも足に 親しみぬ
三日三晩の 籠城も
過ぎて 楽しい 思い出よ
いざ行こう 我が友よ
日高の山に 夏の旅に
北の山のカールの中に眠ろうよ

三

山は紅葉に 色どられ
頂高く 空澄みぬ
新雪輝く 山は
いずれも 親しき 友だちよ
いざ行こう 我が友よ
ニセイカウシュベに トムラウシに
北の山の沢の たき火に 語ろうよ

四

吹雪も 止んだ 朝まだき
凍った テントを 起き出でて
はるかに のぞむ やせ 尾根は
朝焼け 燃ゆる ペテガリだ
いざ行こう 我が友よ
氷の 尾根に アンザイレン
北の山の 聖き 頂 目指そうよ